九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[019] 教育基礎学研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/6769072

出版情報：教育基礎学研究. 19, 2022-03-25. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

感謝の言葉

木村政伸先生、ご退職おめでとうございます。

教育基礎学研究会のもとに、志をひとつにして集い、教育なるものの究明のために歩んできた者は皆、先生への感謝の気持ちを胸に、今この『教育基礎学研究』の木村政伸先生ご退職記念号を手にしていることと思います。

木村先生といえば、「くずし字を読む会」を欠かすことはできません。教育史研究室の先輩として、筑紫女学園大学に勤務されていた時期からずっと継続されてきました。後輩たちは、教育史に係る文書を解読し、まさに研究の基礎である、史料を読む足腰を鍛えることができたのです。近代教育の淵源を探り、そしてその成立過程を具に解明するには、それ以前の人間形成の在り方を知る必要があります。近世史の研究者が希少なのは、その時代の史料を理解できるにはそのための力が必要だからです。木村先生は学生時代、歴史学の授業や研究会に参加し鍛えたと伺ったことがあります。「くずし字を読む会」は、おそらく学生にとっては歴史研究の道場だったとも思えます。同時に、木村先生がいつも、「今こんなの読んでるんだよ～」ととても楽しそうにおっしゃっていたのを覚えています。つい先日も、です。過去の異世界の文字を読むことができる喜びを、学生たちと共に経験し、それを伝授してくださってきました。

さらに、木村先生は自主夜間中学「よみかき教室」の活動を20年以上続けてこられたことは誰もが知っている通りです。ずっと大切にしてこられたこの活動について、先生は、研究のまなざしを向けるのはとても難しい、できない、といつもおっしゃっています。そのような先生が、近世の民衆の読み書き能力獲得の実態とその文脈を問うご研究に向かわれたことは、とても重いものです。この号に掲載されている最終講義の記録に、先生のご研究のアウトラインが紹介されていますが、「歴史的存在」としての木村先生と、そのご研究の足跡、そしてどこまでも真摯な研究へ向かう姿に私たちが何を学ぶことができるのか、それは、これからの私たちに託されたことだと思っています。

基礎学研究会の合宿等の研究会にも、九州大学にいらっしゃる以前からずっと継続的に参加してくださっていました。「親戚のおじさんとして」と、温かくそして厳しいコメントをいただいた人も多いのではないでしょうか。分野を超えて響く言葉のひとつひとつがわたしたちの財産なのだと、いまあらためて思います。どうかこれからも、私たちを見守っていてください。

最後に、きっと政伸先生なら気に入ってくださる、自由を愛するある素敵な人の言葉を贈ります。これを書いているまさにこの時、政伸先生は四国遍路の旅の途中です。

「大切なのは、自分のしたいことを自分で知ってることだよ」

令和４年３月

野々村淑子・藤田雄飛・江口潔